

第二回児童発達支援センター主催研修会を開催しました

令和7年6月2日（月）15：30～17：00、泉佐野市立社会福祉センター2階大会議室にて、第二回児童発達支援センター主催研修会を開催しました。市内の小中学校、障害児通所支援事業所、障害児相談支援事業所、幼稚園、こども園などから、60名の参加がありました。

講師には、畿央大学教育学部教授の大久保賢一先生をお招きし、『子どもたちの適応と成長を支えるポジティブ行動支援』を演題にご登壇いただきました。

研修は、支援者から見た子どもの問題行動には、「してほしいことをしてくれない」と「してほしくないことをする」ことがあり、それにはどんな理由があるのか参加者同士でディスカッションするところから始まりました。問題行動にはその人なりの理由や目的、メッセージが込められていて、メッセージそのものは尊重すべきものが多いということ、適切な道筋を作ってあげることが大切であることを応用行動分析学の「シェイピング法」から学びました。また、罰的な対応は効果があるが、問題点や副作用があることを共通認識しながら、「×から○」ではない子どもの見方について共有しました。

参加者の皆様から、「すぐに実践に活かしていきたい」「参加できなかった職員にも共有したい」といった感想をいただき、好評に終わりました。

子どもたちの思いに寄り添い、肯定するかかわりを大切に改めて支援を考えていきたいと思います。

